

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	肺炎パスにおける在宅看護師の役割
演者名	永田美由紀、尾山直子、井手美子、片山智栄、五味一英、遠矢純一郎
所属	桜新町アーバンクリニック

目的

2012年の厚生労働省による我が国の人口動態統計によると、肺炎は死因順位の第3位になっており、肺炎で亡くなる方の95%以上が65歳以上の高齢者で占められている。高齢者の肺炎は重症化しやすく、特に誤嚥性肺炎が多く再燃しやすいといった特徴がある。当院には肺炎時の治療法やケアに関する指針がないため、統一した対応が行えなかったり、しばし後れが生じる現状があった。そこで医療ケアの標準化を目指し、肺炎のクリニカルパス（以下、肺炎パス）を作成したので、その中でも在宅看護師の役割について考察し報告する。

実践内容

肺炎時に必要と考えられるケア内容として、呼吸機能・咳嗽機能の低下や喀痰排出困難へのケア、口腔内環境の悪化や口腔機能の低下に対してのケア、嚥下障害や不適切な食形態・食事介助に対してのケアが挙げられた。治療指針に加え、肺炎の病期に合ったこれらの適切なケア介入を整理し、経時的にまとめた患者・家族用の肺炎パス表を作成。また、ケアの主体となる家族への指導が重要であると考え、それぞれのケア方法についてパンフレットを作成し導入した。

実践効果

患者・家族用の肺炎パス導入により、肺炎治療の一連の流れ、その時期の観察項目や生じる症状と対処方法、肺炎の重症化を予防するケアの介入が一目瞭然となり、迅速な初期対応と先を見越した準備、過不足ない対応が可能となった。また、患者・家族だけではなく、患者に関わる多職種スタッフ間で共通した認識を持つことができ、ケアの統一化を図ることができた。

考察

肺炎患者・家族に関わる在宅看護師は、肺炎の病期に合った患者の状態把握と必要なケアの実施、患者・家族への情報提供やケア方法の指導、患者に関わる多職種スタッフとの連携の調整を行うことが重要である。今後肺炎パスの導入を促進し、改善していきながら在宅医療におけるクリニカルパスの効果を検証していきたい。